

母性看護学

【母性看護学の考え方】

生命の誕生(妊娠の成立)には様々なホルモンが関与している。胎盤形成や胎児発育に伴い、母体の身体的・心理的变化は大きく、マイナートラブルを引き起こしやすい。また、母体が順調な妊娠経過を辿ることは、胎児の発育にも影響を与える。さらに、安全かつ順調な分娩期、産褥期にも影響するため、妊娠期の健康管理を支える看護は重要である。

分娩期は、胎児が産道を通り胎外へ娩出される時期である。妊娠期の体重増加や血圧の推移は分娩経過に影響を与える。また、産痛及び分娩に対する不安が齎すマイナスイメージは、産後の育児不安につながるため、分娩期の身体的・精神的支援は重要な役割をもつ。現代の日本は、晩婚化・晩産化に伴い、高齢出産や就労妊婦が増加している。就労継続しながらも妊婦が快適な妊娠生活を過ごし、且つ胎児も順調に発育できるよう支援することが必要である。

産褥期は、子宮や血液量等の身体機能が非妊時の状態に回復し、母乳が分泌し始め児に対し授乳を開始する時期である。家族の役割も大きく変化する。最近では育児不安から産後うつ病に移行する人が増加し、益々産後ケアを含む産褥期の看護が求められている。

新生児は、出生直後に心臓の構造を変え、第一啼泣により肺に空気を取り込み肺呼吸を始める等、心肺機能について急激な変化が生じる。また、生理的黄疸や生理的体重減少等、生理的な身体的変化が著しい時期であり、生理的变化が正常からの逸脱かを正確に判断し、異常に陥ることのないよう精密な観察が求められる時期である。

リプロダクティブヘルスの視点から、人工妊娠中絶、生殖補助医療、出生前診断等など、倫理的な課題について考える姿勢が求められる。また、都内中心部だけでなく市内の外国人住民の増加から、各国の文化や宗教、社会背景を踏まえた女性の捉え方を考える必要がある。

以上のように、妊娠・出産は、女性と家族にとって重要なライフイベントであり、その後の人生に大きな影響を及ぼす。看護者は、妊娠、出産という生理的な変化の中でより良い健康をめざすウェルネスの視点をもち、妊産婦とその家族のセルフケアの支援を行う。

〔 目的 〕

周産期にある対象の特徴を理解し、対象の健康を支援するための看護実践能力を養う。

〔 目標 〕

- 1.母性看護の中心概念であるリプロダクティブヘルスについて理解できる。
- 2.周産期にある対象の身体的・精神的・社会的変化を支える看護について理解できる。
- 3.新生児の胎外生活適応を支える看護について理解できる。
- 4.妊娠・出産・育児を支える地域の取り組みについて理解できる。

【構成および計画】

授業科目	単位数 (単位)	時間数 (時間)	学年別計画時間		
			1年	2年	3年
母性看護学概論	1	30	1(30)		
妊娠期と分娩期の看護	1	30		1(30)	
産褥期と新生児の看護	1	30		1(30)	
周産期の事例演習	1	15		1(15)	
合計	4	105	1(30)	3(75)	

科目名 母性看護学概論	講 師 内田 裕子	単位数 1 時間数 30
科目目的 : 母性とは何かについて考え、母性看護の意義と果たす役割について理解し、女性のライフサイクルの健康について学ぶ。 科目目標 : 1. 母性看護の対象及び看護の役割と関連する保健医療の仕組みが理解できる。 2. 人間の性と生殖のしくみ、倫理的問題と母性看護について理解できる。 3. 女性のライフサイクル各期における健康的な生活を送るための仕組みや支援を理解できる。		
講義回数	学 習 内 容	
1～2回	1. 母性看護の基盤となる概念	1) 母性とは 2) 母子関係と家族発達 3) セクシャリティ(人間の性) 4) リプロダクティブヘルス/ライツ 5) ヘルスプロモーション 6) 母性看護あり方-倫理と安全・事故予防
3～4回	2. 母性看護の対象を取り巻く 社会の変遷と現状	1) 母性看護の歴史の変遷と現状 2) 母性看護の提供システム
5～7回	3. 母性看護の対象理解	1) 女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化 2) 女性のライフサイクルと家族 3) 母性の発達・成熟・継承
8～9回	4. 母性看護に必要な看護技術	1) 母性看護における看護過程 2) 情報収集・アセスメント技術 3) 母性看護に使われる看護技術
10～11回	5. 女性のライフステージ 各期における看護	1) ライフサイクルにおける女性の健康と看護 2) 思春期の健康と看護 3) 性成熟期の健康と看護 4) 更年期・老年期の健康と看護
12～14回	6. リプロダクティブヘルスケア	1) 家族計画 2) 性感染症とその予防 3) HIVに感染した女性に対する看護 4) 人工妊娠中絶と看護 5) 喫煙と女性の健康 6) 性暴力を受けた女性に関する看護 7) 児童虐待と看護 8) 国際化社会と看護
評価	筆記試験、課題レポート内容にて評価する。	
テキスト	系統看護学講座 専門分野 母性看護学概論 母性看護学1 第2版 (医学書院) 国民衛生の動向	
備考		

科目名		講師	内田 裕子	単位数	1
	妊娠期と分娩期の看護			時間数	30
<p>科目目的 : 妊娠分娩期にある人々を理解し、対象と取り巻く家族の健康を支援するための看護を学ぶ。</p> <p>科目目標 : 1. 妊婦・産婦の特徴を理解し、健康的な生活が維持・促進するための看護が理解できる。 2. 正常からの逸脱を予測し、その予防と看護が理解できる。</p>					
講義回数	学 習 内 容				
1回	出生前からのリプロダクティブヘルスケア	1) リプロダクティブヘルスケアの必要性 2) 遺伝相談 3) 不妊治療と看護			
2～4回	妊娠期における看護	1) 妊娠期の身体的特性 2) 妊娠期の心理・社会的特性 3) 妊婦と胎児のアセスメント 4) 妊婦と家族の看護			
5～7回	妊娠期の異常と看護	1) ハイリスク妊娠 2) 妊娠期の感染症 3) 妊娠疾患 4) 多胎妊娠 5) 妊娠持続期間の異常 6) 異所性妊娠 7) ハイリスク妊婦の看護			
8～11回	分娩期における看護	1) 分娩の要素 2) 分娩の経過 3) 産婦・胎児・家族のアセスメント 4) 産婦と家族の看護 5) 分娩期の看護の実際			
12～14回	分娩期の異常と看護	1) 産道の異常 2) 娩出力の異常 3) 胎児の異常による分娩障害 4) 胎児付属物の異常 5) 胎児機能不全 6) 分娩時の損傷 7) 分娩第3期および分娩直後の異常 8) 分娩時異常出血 9) 産科処置と産科手術 10) 異常のある産婦の看護 11) 異常分娩時の産婦の看護 12) 分娩時異常出血のある産婦の看護			
評価	筆記試験及びレポート課題にて評価する。				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 母性看護学概論 母性看護学2 第2版 (医学書院) ウェルネスからみた母性看護過程+病態関連図 第4版 (医学書院)				
備考	参考図書: NURSING TEXTBOOK SERIES 母性看護学Ⅱ 周産期各論 第2版 (医歯薬出版株式会社)				

科目名	産褥期と新生児の看護	講師	内田 裕子	単位数	1
				時間数	30
<p>科目目的 : 産褥期にある人々を理解し、対象と取り巻く家族の健康を支援するための看護を学ぶ。</p> <p>科目目標 : 1. 産褥の生理的变化と経過を学び、母子に対する看護が理解できる。</p> <p>2. 新生児期の生理的变化と出生後の変化を学び、新生児の看護が理解できる。</p> <p>3. 子どもの誕生に伴う家族の役割変化への援助が理解できる。</p>					
講義回数	学 習 内 容				
1～3回	新生児期における看護	1) 新生児の生理 2) 新生児のアセスメント 3) 新生児の看護			
4～5回	新生児期の異常と看護	1) 新生児仮死 2) 分娩外傷 3) 低出生体重児 4) 高ビリルビン血症 5) 新生児・乳児ビタミンK欠乏症			
6～9回	産褥期の看護	1) 産褥経過 2) 褥婦のアセスメント 3) 褥婦と家族の看護 4) 施設退院後の看護			
10～13回	産褥期の異常と看護	1) 子宮復古不全 2) 産褥期の発熱 3) 産褥血栓症 4) 精神障害 5) 異常のある褥婦の看護 6) 育児に困難さをかかえる母親への看護 7) 児を亡くした褥婦・家族の看護			
14回	メンタルヘルスの問題をかかえる母親の支援	1) 妊娠・出産・育児への影響 2) 治療および看護			
評価	筆記試験、レポート課題にて評価する。				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 母性看護学概論 母性看護学2 第2版 (医学書院) ウェルネスからみた母性看護過程+病態関連図 第4版 (医学書院)				
備考	参考図書:NURSING TEXTBOOK SERIES 母性看護学II 周産期各論 第2版(医歯薬出版株式会社)				

科目名		講師	内田 裕子	単位数	1
	周産期の事例演習			時間数	15
<p>科目目的 : 褥婦、新生児およびその家族の健康増進に向けた看護を理解し、看護過程の展開に必要な基礎的知識を学ぶ。</p> <p>科目目標 : 1. 褥婦、新生児およびその家族における生理的变化・心理的变化・社会的変化を踏まえ、ウェルネス志向を用いて看護過程の展開ができる。</p> <p>2. 褥婦、新生児およびその家族への看護が理解できる。</p>					
講義回数	学 習 内 容				
1～2回	母性看護に必要な看護技術	1) 母性看護における看護過程と看護技術 2) ウェルネスとは			
3～5回	演習 I	1) 個人で事例の展開 ・4例のうち1事例を展開する			
6回	演習 II 指導案の作成について	1) 個人ワーク(指導案及び指導媒体作成) ・指導内容:産褥体操/授乳技術/社会資源/家族計画、等 個人で選択した指導の指導案及び指導媒体を作成する			
7回	演習 II	1) 指導の実際(指導案及び指導媒体)と発表			
評価	筆記試験及び指導案・指導技術にて評価する。				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 母性看護学概論 母性看護学1 第2 (医学書院) ウェルネスからみた母性看護過程+病態関連図 第4 (医学書院)				
備考	参考図書:ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程 第3版(医歯薬出版株式会社)				